2024年度会費・ご寄附のご依頼

世界中で子どもの命が奪われています。

日本では、希死念慮や自傷行為の子どもが増大しています。

昨年度の国立成育医療センターの全国調査では、小学５・６年生（11・12歳）に限定すると、調査の１週間に死にたいと思った・自傷行為をした子どもが20%近くに上ったと発表されました。電話やチャットには、「ずっと死にたいと思っている」「自傷がやめられない」「何のために生きているのだろう」「寂しくて、誰もいない」と、悲痛な声がたくさん寄せられています。

2023年度には日本財団助成事業として、「子育て世帯訪問支援事業(2024年度新規事業)の今後の制度設計・改善のための調査研究」を元大正大学の西郷先生と二人で全国調査を実施し、2024年３月に報告書を作成しました。私はインタビュー調査を担当しましたが、調査の結果、見えてきたのは日本の子どもは生き難さを親にも周りの誰にも気づかれないように細心の注意を払って生きていることでした。一方で、気分不安定な母親が激増しており、一緒に生活している子どもは気分変調の母親の怒りの爆発を浴びないように常に母親の顔色を窺わなければならないことです。自治体は心理的影響をもろに受けている子どもについては把握できておらず、その結果、子どもへの支援が全国ほとんど実施されていないことが明らかとなりました。その結果、思春期を経て成人していくプロセスで、愛着障害・自虐行為等の逆境体験を経験している彼らは、ギャンブルや薬物等に依存してしか生きていけなくなります。けれども、子ども時代に毎週、訪問支援員が子どもと遊ぶ・片付ける・食事を作る等、継続して関わってくれると、子どもはその支援員を心待ちするようになり、数年後には子どもは元気を回復し安定してきて高校通学等、活動を開始します。インタビュー調査から見えてきたことですが、残念ながら全国の自治体で小学生以上の子どもへの支援員の訪問がほとんど実施されていない現状と希死念慮の子どもの増加は比例していることから、就学後の子どもにも訪問支援員を派遣することは喫緊の課題だと考えています。

皆さまには、是非日本の子どもの実情をご理解いただきまして、子どもの現在の状況と課題に取り組んでおります当協会へのご支援を賜りたく、赤字続きではありますが、どうぞ引き続きご寄附・会費のご納入をよろしくお願い申し上げます。同封の振替用紙をご利用いただければと思います。

2024年12月

特定非営利活動法人　日本子どもソーシャルワーク協会　理事長　寺出　壽美子

◇ご寄附・会費のお願い◇　　◇みずほ銀行　成城支店　普通　8045776

◇郵便振替　　000190-3-659676